

日吉大社自然観察倶楽部通信

No.27 日吉大社の紅葉観察会

H27年11月23日

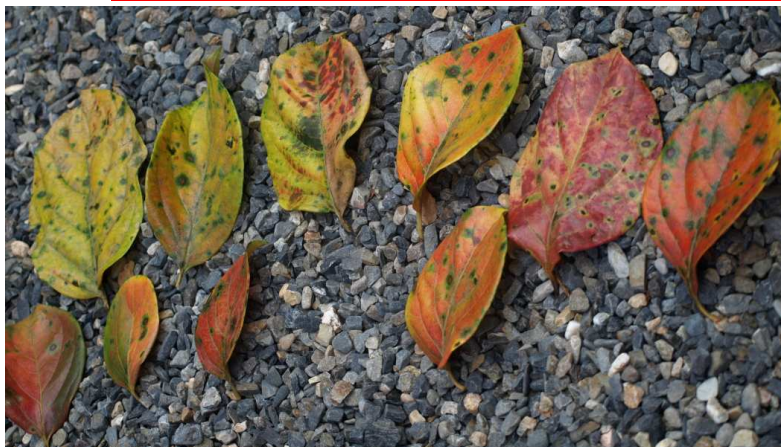


秋にしては暖かい天気の中、16名で日吉大社の紅葉を観察しました。今年は、秋の冷え込みが弱かったせいか、イロハモミジの葉が紅葉する前に枯れて赤茶色になっている木が目立ちました。



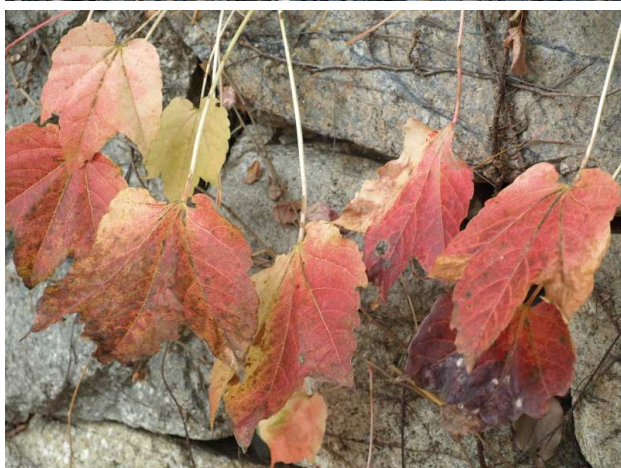
紅葉は気温が8℃以下になると、木が葉に栄養を送るのをやめる事によっておこります。離層と呼ばれるこの現象が起こると、葉に残った栄養分の影響で色が変わります。一般的に紅葉は、モミジの赤色を指しますが、黄色くなる黄葉、早く茶色になる褐葉もあります。

境内のイロハモミジは赤・黄・緑色でしたが(写真上)、その変化がとても分かりやすいのが、意外にもカキの葉でした。(写真下)



左から右にいくにつれて、色が、黄色からオレンジ・赤に変化している様子が分かります。

観察会が終わって、12月頃、葉の大きいオオモミジがきれいに紅葉していました。温暖化の影響を受けているのかもしれませんが。



西本宮前の
ムクロジ(黄葉)



芙蓉園前の
ツタ(紅葉)

